

## 目標未達成理由等の報告書

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施年度	目標年度	事業実施主体
沖縄県	大宜味村	大宜味地区	平成27年度	平成29年度	大宜味村

## I 経営体ごとの成果目標の未達成理由等

No.	対象経営体名	成果目標	目標未達成となった主な理由等	目標達成に向けた改善措置及び目標達成見込時期等
1		農産物の高付加価値化	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続きオクラレルカの葉に斑点、黒スジ、黄化症状が発生し、品質が低下しており、収穫できる葉が依然として少なく出荷量は減少し、目標達成には至らなかった。</li> <li>さらに令和2年度については新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり出荷制限や単価の下落があったため収穫控えなどもあり出荷数量が下がった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き収量低下の主な要因である病気については、次回はカルシウム等の微量要素の入った液肥を葉面散布して植物体を元気にして回復を目指す。</li> <li>休耕している水田にも作付けを促し、反収の低い水田については作付け作物を変えるなどして効率的な作付け体系になるように促す。</li> <li>目標達成見込み時期については令和2年出荷分も目標未達のため、翌年の令和3年の出荷では達成が見込めると思われる。</li> </ul>

## II 地区の成果目標(必須目標)ごとの未達成理由等

成果目標項目(必須目標)	未達成理由の総括	目標達成に向けた改善措置及び目標達成見込時期等
農作物の高付加価値化	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続きオクラレルカの葉に斑点、黒スジ、黄化症状が発生し、品質が低下しており、収穫できる葉が依然として少なく出荷量は減少し、目標達成には至らなかった。</li> <li>さらに令和2年度については新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり出荷制限や単価の下落があったため収穫控えなどもあり出荷数量が下がった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き収量低下の主な要因である病気については、次回はカルシウム等の微量要素の入った液肥を葉面散布して植物体を元気にして回復を目指す。</li> <li>休耕している水田にも作付けを促し、反収の低い水田については作付け作物を変えるなどして効率的な作付け体系になるように促す。</li> <li>目標達成見込み時期については令和2年出荷分も目標未達のため、翌年の令和3年の出荷では達成が見込めると思われる。</li> </ul>

## III 地域への影響等と構造政策を進めるための今後の取組方向

<p>1 担い手への農地利用集積について 中間管理機構を活用し担い手へ集積を図っている。</p> <p>2 必要となる中心経営体の育成について 地域の中心経営体としての自覚を持たせ、次世代の担い手(青年就農者等)の育成(指導・助言)する立場になるように支援する。</p> <p>3 人・農地プランの作成・見直し等について 実質化に向けた取り組みを実施。</p> <p>4 未達成者の対応等その他</p> <p>引き続き関係機関と連携し、斑点症状の原因究明に向け調査を行い、効果的な対策を見出していく。</p>
--

## 〔記入要領〕

- Iの「目標未達成となった主な理由等」欄については、経営体の成果目標の項目ごとに主な理由を記入する。  
また、「目標達成に向けた改善措置及び目標達成見込時期等」欄については、これまでの達成状況等の推移を踏まえ、具体的な改善措置の内容、目標達成の見込とその時期について記入する。
- IIの「未達成理由の総括」欄については、必須目標となる地区の成果目標ごとに、未達成理由を総括的に整理する。  
また、「目標達成に向けた改善措置及び目標達成見込時期等」欄についても、地区の成果目標ごとに具体的な改善措置の内容、目標達成の見込みとその時期について総括的に記入する。
- IIIについては、IIで整理した地区の成果目標未達成理由等を考慮の上で、①地区内の担い手への農地利用集積状況や出し手・受け手の現状等を踏まえた課題と今後の具体的な対応策、②地域が必要とする担い手と地域内での役割分担の状況等を踏まえた課題と今後の具体的な対応策、③人・農地プランと現状との乖離状況等を踏まえた具体的な対応策等、④未達成者への今後の対応その他課題と対策等について記入する。